

わたしにできそうなこと

実践場所	高知県	高知県立高知小津高等学校	実践者	山本 葉子
対 象	高校 2 年生		時間数	3 時間
担当教科	数学		実践教科	LH(ロングホームルーム)
ねらい	途上国の現状をふまえ、青年海外協力隊の取り組みを知る。 世界で活躍する人に学び、自分の進路を考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【途上国の現状～エチオピアとネパール～】 事前アンケート(7月実施)でエチオピアについてよく知らない生徒が多かったので、日本と同じアジアに位置するネパールの写真を交えてエチオピアを紹介する。また、エチオピアカラーのプレスレットから、国旗に込められた意味を考えさせる。		パワーポイント プレスレット
	2	【青年海外協力隊】 青年海外協力隊について調べ学習させる。また、将来隊員として参加することをイメージさせ、担当できそうな職種を考えさせる。さらに、ボンガ隊員(3名)を紹介し、日本の高校2年生へのメッセージを伝える。		穴埋め問題 隊員インタビュー 職種アンケート
	3	【元青年海外協力隊員の取り組み】 元隊員として、JICA 四国 内山光晴さんよりセネガルでの体験談をいただく。		パワーポイント アンケート
成 果	この実践を通して、生徒にはそれぞれ「できそうなこと」を考えさせた。行けそう、知れそう、学べそう等、生徒はたくさん「できそうなこと」みつけた。そして、勉強したり、部活に精を出したり、家の手伝いをしたり、研修に参加したりと形はそれぞれ異なるが、以前より意欲的に取り組む生徒の姿が見られるようになってきた。			
課 題	教科の特性上、数学の授業を使うことができないので、特別活動であるLH(ロングホームルーム)の時間を使った。ただし、LHは年間の予定が決められているので、空き時間に効率よく計画することが難しかった。			
備 考	教師海外研修は、新聞部発行の学校新聞「ハトの宅急便第67号(2015 年 11 月 10 日火曜日)」に取り上げられ、他のホームの生徒や保護者からも反響が得られた。			

〔授業実践の詳細〕

1 時限目「途上国の現状～エチオピアとネパール」

1 生徒の活動の流れ

- ① 4グループ(各8名)に分かれて、それぞれ風景、人、食べ物、国旗に関するフォトランゲージに取り組み、エチオピアとネパールを比較する。その際、東アフリカに位置するエチオピアと南アジアに位置するネパールを世界地図上で確認し、ヒントとして活用する。また、両国の様子を通して、途上国の現状を知る。
- ② 教師海外研修の写真を見て、説明を聞きながら、よりエチオピアについて知る。また、お土産のブレスレットを用いて、国旗にこめられた意味について学習する。

2 生徒の活動の成果・反応

- ◇ エチオピアとネパールの写真比較は、どのグループとも正解することができた。風景については「木」と「棚田」、人(女の子)については「肌の色」、食べ物については「米」にそれぞれ注目して判断した。また、国旗については色の持つイメージで判断した。
- ◇ 事前アンケートでは、エチオピアの人は服を着ていない(着けていても布を巻きつけている)イメージをもつ生徒が少なからずいたが、数々の写真を見て、その誤解は払拭できたようであった。
- ◇ 国旗に込められた意味(緑:農業の実り、黄:天然資源、赤:国民の勇気と情熱、青:平和、ソロモンの星:発展の象徴)を調べるうちに、日の丸(赤:博愛と活力、白:神聖と純潔)についても関心が向いた。ブレスレットを身につけながらエチオピアのもつエネルギーを肌で感じていた。

この時限のねらい

- エチオピアについて、事前に実施したアンケート(7月)では、生徒にほとんど知識がないことがわかったので、日本と同じアジアに位置するネパールと対比させることによって、エチオピアをより知ることができるようにした。
- エチオピアを身近に感じてもらえるよう国旗色のブレスレットを準備し、国旗に込められる意味について学習させた。

3 使用した教材

＜教材1＞風景の写真



(左) エチオピア
ジンマへの車窓

(右) ネパール
トゥリスリへの車窓

<教材2>人の写真



(左) エチオピア
移動途中の女の子



(右) ネパール
トゥリスリの女の子

<教材3>食べ物の写真

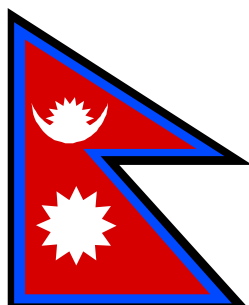


(左) エチオピア
主食のインジェラ



(右) ネパール
ダルバート風

<教材4>国旗の写真



(左) エチオピア
実り・資源・勇気
情熱・平和・発展
(右) ネパール
月・太陽・国民
ヒマラヤの空

2 時限目「青年海外協力隊」

1 生徒の活動の流れ

- ① 青年海外協力隊について調べる(穴埋め問題形式)。
- ② 教師海外研修「世界のために17〜肌で感じた国際協力〜(KSB 瀬戸内海放送)」を通して、隊員の取り組みを知る。
- ③ ボンガ隊員(3名)の取り組みを具体的に知る。
- ④ 将来、青年海外協力隊に参加するとしたら、自分にできる「職種」を考える。

2 生徒の活動の成果・反応

- ◇ 青年海外協力隊の調べ学習を通して、応募資格や職種、試験の内容など初めて知る生徒が多かった。また、皆に参加の可能性があるということで前向きに捉える生徒が多かった。

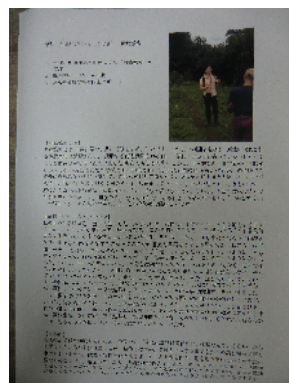
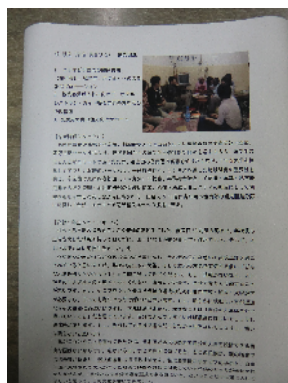
この時限のねらい

青年海外協力隊を他人ごとではなく自分のこととして捉えられるよう、担当可能な「職種」を考えさせた。そして、ボンガ隊員から届いた高校2年生へのメッセージを通して、今自分に何ができるか考えさせた。

- ◇ 教師海外研修の動画を見て、香川の出水結花先生の研修前から研修中の取り組みを、同じ高校の先生ということからとても身近に感じていた。
- ◇ ボンガ隊員から届いたメッセージはまさに日本の高校 2 年生へのものだったので、隊員の高校時代とも重ね合わせて、生徒たちは今自分に何ができるか考えさせられたようだった。
- ◇ 青年海外協力隊の希望職種アンケートでは、私が考える以上に生徒は真剣に考えていた。大半は希望する進路に直結する職種を選び、他には部活動や趣味、特技を活かせる職種を選んだ。そして、私たちには生徒の新たな一面が見られ、お互いに共有しながら盛り上がった。

3 使用した教材

<教材1>ボンガ隊員へのインタビュー



(左) 牧 秋宏さん

(中) 平山絵梨さん

(右) 萩原翔隼さん

<教材2> 青年海外協力隊の希望職種アンケート結果(複数回答)

6 名・・・水泳
 3 名・・・きのこ栽培／数学教育／体育／幼児教育／料理
 2 名・・・溶接／野球
 1 名・・・コミュニティ開発／行政サービス／土木／建築／測量／野菜栽培／マーケティング
 観光／青少年活動／卓球／空手／新体操／テニス／バレーボール／サッカー／音楽
 日本語教育／理科教育／デザイン／手工芸／看護師／臨床検査技師／作業療法士
 薬剤師／栄養士／障害児・者支援

3 時限目「元青年海外協力隊員の取り組み」

1 生徒の活動の流れ

- ① 元セネガル隊員 内山光晴さんの講義(体験談)を受ける。
- ② 講義に関するアンケートに答える。

2 生徒の活動の成果・反応

- ◇ セネガルの写真や動画にとても興味を示していた。
- ◇ 講義の内容もさることながら、内山さんの人柄やプレゼン力に興味し、満足した生徒が多かった。
- ◇ 講義に関するアンケートでは、ふだんの生徒には見られないような興奮と感動が伝わってきた。講義については、ほとんどの生徒が「面白かった」と応え、「海外への興味」を覗かせた。

この時限のねらい

前時に続き、青年海外協力隊員が実際どのような活動をしているか、隊員の体験談として話を聞くことで生徒に擬似体験をさせたい。

3 使用した教材

＜教材＞講義に関するアンケート結果（自由記述形式）

Q. 今後に生かせることは何ですか。

A. 青年海外協力隊に参加する／海外ボランティアに参加する／高知を出る／海外に行く／進路視野を広げる／知らない世界を知る／挑戦する／積極的に取り組む／英語力を身につける
自ら体験する（体験しようとする）／新しいことに興味をもって楽しもうとする意識をもつ
違いから学ぶ／価値観を刺激する

■ 全体を通して

1 授業の様子

＜写真1＞プレスレット



＜写真2＞内山さんの講義（準備中）



2 参考文献・資料

ボンガ隊員へのインタビュー資料（金澤敦子先生より提供）